東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2009年11月13日

巡礼

ムスリムの皆様。崇高なるアッラーは「この家への巡礼は、そこに赴ける人びとに課せられたアッラーへの義務である。背信者があっても、まことにアッラーは万有に（超越され）完全に自足されておられる方である。」（イムラーン家章９７節）とおおせられ、一定の条件を満たしている人々を巡礼に招かれました。この神聖なるお招きに、この巡礼の季節において応じている兄弟姉妹の信者の人たちは、崇高なるアッラーからの招待客として、アッラーの家を訪問する名誉と喜びを手にしているのです。

親愛なるムスリムの皆様。暮らしにおける信仰の反映であるイバーダは、崇高なる創造主との間の、最も強固な、そして最も素晴らしいつながりです。このイバーダの一つである巡礼は、個人的、かつ社会的な面で成熟をもたらす多くの特質を備えています。世界各地からやってきた、言葉も、種族も、色も、文化も、経済状況もことなる信者たちが、同じ信仰と思いのうちに出会い、兄弟として結びつく機会を与えます。巡礼は、預言者たちの許しによって、高められ、アッラーのご満悦を得ることのできる道において実現化された、英知に満ちた旅路です。この旅路において信者たちは信仰を強固にすると同時に、アッラーを畏れること、忍耐すること、愛情、敬意、兄弟愛、献身、気前のよさといった多くの美徳を実践する機会を得ます。

親愛なるムスリムの皆様。巡礼においては、礼拝、タワーフ（カーバ神殿を回巡すること）、サーイ（サファとマルワの二つの丘の間を七度駆け足で往復する儀式のこと）タルビーヤ、アラファトでの滞在、悔悟、犠牲、イフラームなどによって成り立つ多くのイバーダやアッラーの命令に従うことで、人々は喜びの中にあります。財産、富、子供、親戚などは後に残し、イフラームによってアッラーの御前で、「ラッバイカ　アッラーフンマ　ラッバイカ（あなたのお招きに従い、御前に参りました）」と唱えながら、アッラーへの従順を明らかにした信者たちは、日常の仕事やわずらわしさから遠ざかり、完全なやすらぎに満ちた心で、 アッラーの御前に向かう機会を得るのです。

この聖なる旅において実行されるイバーダにも、多くの英知が秘められています。カーバ神殿の周囲を周回することは、アッラーを高めるという、シャイターンに投石することは、あらゆる悪を放棄するという、アラファトでの滞在は、アッラーのご満悦を得ることを何よりも優先させるという、イフラームの禁止事項に従うことは、アッラーのご命令に応じるという、犠牲は、アッラーの道のために何かを捧げることの象徴として考えるという意味で行うことは、巡礼におけるイバーダに新たな意義と素晴らしさを見出すことができるでしょう。

この旅路において、巡礼者たちが最も注意しなければいけない点のうちの一つが、忍耐強く、我慢強くあるべきだ、という点です。巡礼者たちは、イフラームの状態であることを常に認識し、過ちを目にせず、あらゆる命あるものに対し愛情と慈しみをもって接するよう、努めなければなりません。そこでの時間を、イバーダやアッラーのご命令への服従で有意義に費やさなければなりません。買い物、市場といったことで必要以上に時間を費やすべきではないのです。

本日のフトバを、次のハディースで締めくくりたいと思います。預言者ムハンマドの「巡礼を行なった人は、母から生まれた日のように、罪から清められている。」と述べられている。